

事業の背景・目的

白神山地サスティナブル・ツーリズムの創発

世界遺産白神山地の里地里山では人口減少が進み、里地・里山の維持が困難になり里山活性化を進める為、一度リブートし、SDGsの理念を埋め込み再起動し、サスティナブル・ツーリズムのメッカとなることを目指した。特にローカルの「グリーントランスフォーメーション」を進め、里山のキャンプやテントサウナ等の体験メニューの開発を造成し、新たなグリーン商品の開発や販売市場でのPRに務める中で、カーボンニュートラル時代の観光市場への参入を目指す取り組みを実現し進めていきたい。



事業の内容

・実績報告書（別紙10-3）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

- ①白神の里山の林産物活用事業
- ・クロモジ・杉・ひば・リンゴ・トウヒ等、アウトドアスプレーの商品開発を実施
 - ・草木染の材料採取しこぎん刺し作成
 - ・アロマオイルと蒸留水を混ぜた防虫・除菌スプレーの開発を行った。現在テントサウナでの試作品づくりは途中であるが進めた



- ②里山のサスティナブル・ツーリズム事業

- ・夏期テント泊のモニター実施
- ・冬期キャンプ飯、テント、スノーハイクスキーを使った冬場のモニター実施
- ・夏冬のプログラム100作成した

- ③キャンプ・スノーハイクガイド養成講座事業

- ・白神の里山で五感を使ったプログラムの開発の実施
- ・ワークショップで、内容の検証の実施
- ・動画・静止画の取材でHP・PR作成
- ・質の高いガイド養成講座の実施の為に体制づくりを行い、3年目に養成講座を実施予定

得られた成果

①～③の3つの事業を2年間を目標を決めて進めてきた白神の里地里山の自然由来の可能性を発見したり、将来の可能性も新たに見えてきた。

- ①里地里山でのテントやテントサウナや、林産物を活用した試作品づくりやローリュの試作品づくりは新たな集客層開拓へのチャンスが広がった。
- ②白神山地の課題は軟弱な地盤の為に奥山へのアクセス環境が悪く中々入れないのが、夏・冬の白神の里地里山で楽しめるプログラムをつくれたことで、持続可能な観光を広げるチャンスを発見できた。
- ③日本遺産と世界自然遺産と二つの冠を持つ鱒ヶ沢町は、インバウンドも含め、多くの観光客や自然を愛する方々には魅力溢れる環境にあるが、その魅力をどう伝えるたりプロモーションしていくかがとても大事な課題であった。また、冬期間の観光も大きな課題でグリーンシーズンしか稼げない体制では、ガイドも根付かないし、魅力も伝わらないので、今回の養成講座事業でテントやスノーハイクスキーの指導員4名輩出した。白神山地の質の高いガイドの養成講座については議論を進めてきており、3年目には素晴らしい講師陣やカリキュラムで養成講座を実施する予定としており、この地元の良さを持続的な観光に結び付けていきたい。